

修士論文（要旨）

2020年1月

中国人日本語学習者の動機づけと学習ストラテジーとの関係  
—来日前後の変動についての質的調査から—

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻  
218J3005  
許 力

Master's Thesis (Abstract)  
January 2020

The Relationship between the Motivation of Chinese Learners of Japanese and their  
Learning Strategies:  
Based on a Qualitative Survey of Changes Before and After Coming to Japan

Li Xu  
218J3005  
Master's Program in Japanese Language Education  
Graduate School of Language Education  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Nobuko Saito

## 目次

<b>第1章 序論</b> .....	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 研究目的.....	2
<b>第2章 先行研究</b> .....	3
2.1 動機づけ.....	3
2.1.1 動機づけの定義.....	3
2.1.2 動機づけの分類.....	3
2.2 学習ストラテジー.....	4
2.2.1 学習ストラテジーの定義.....	5
2.2.2 学習ストラテジーの分類.....	5
2.3 学習者の学習ストラテジー及び動機づけに関する先行研究の概観.....	6
<b>第3章 研究方法</b> .....	8
3.1 調査対象.....	8
3.1.1 協力者の基本情報.....	8
3.1.2 協力者の高校（専門高校）.....	8
3.1.3 協力者の大学（専科大学）.....	8
3.2 本調査の実施.....	8
3.3 分析方法.....	9
3.3.1 複線経路等至性アプローチ（Trajectory Equifinality Approach : TEA）.....	9
3.3.2 TEM で用いられる概念.....	9
<b>第4章 調査結果および分析</b> .....	11
4.1 TEM 図の分析結果.....	11
4.1.1 第1期：初めての日本語（5歳～高校卒業）.....	12
4.1.2 第2期：大学と就職（2011年～2016年4月）.....	13
4.1.3 第3期：留学① 日本語学校前期（2016年05月～2017年05月）.....	15
4.1.4 第4期：留学② 日本語学校中期（2017年05月～2017年12月）.....	16
4.1.5 第5期：留学③ 日本語学校後期と編入（2017年12月～現在）.....	18
4.2 学習動機づけと学習ストラテジーの変化のプロセス.....	19
4.2.1 5歳ぐらいの学習動機づけと学習ストラテジー.....	19
4.2.2 小6夏休みの学習動機づけと学習ストラテジー.....	20
4.2.3 中学時代の学習動機づけと学習ストラテジー.....	22
4.2.4 高校の学習動機づけと学習ストラテジー.....	24
4.2.5 大学の学習動機づけと学習ストラテジー.....	26
4.2.6 就職～留学前の学習動機づけと学習ストラテジー.....	28
4.2.7 日本語学校前期の学習動機づけと学習ストラテジー.....	30
4.2.8 日本語学校中期の学習動機づけと学習ストラテジー.....	31
4.2.9 日本語学校後期の学習動機づけと学習ストラテジー.....	33
4.3 来日前後の比較.....	35
4.3.1 学習動機づけの比較.....	35

4.3.2	学習ストラテジーの比較	37
4.3.3	学習動機づけと学習動機ストラテジーとの関係性	39
<b>第5章</b>	<b>考察</b>	42
5.1	来日前後の学習動機づけと学習ストラテジーの比較	42
5.1.1	来日前後の学習動機づけの比較	42
5.1.2	来日前後の学習ストラテジーの比較	42
5.1.3	来日前後の学習動機づけと学習ストラテジーの関係性の比較	43
5.2	日本語学習に影響を与える要因	44
<b>第6章</b>	<b>おわりに</b>	45
6.1	まとめ	45
6.2	今後の課題	45
	<参考文献>	i
	付録	i
図2	: 第1期: 初めての日本語 (5歳~高校卒業)	i
図3	: 第2期: 大学と就職 (2011年~2016年4月)	ii
図4	: 第3期: 留学① 日本語学校前期 (2016年05月~2017年05月)	iii
図5	: 第4期: 留学② 日本語学校中期 (2017年05月~2017年12月)	iv
図6	: 第5期: 留学③ 日本語学校後期と編入 (2017年12月~現在)	v
図7	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル① (5歳~小6夏休み)	vi
図8	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル② (中学時代)	vii
図9	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル③ (高校時代)	viii
図10	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル④ (大学時代)	ix
図11	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル⑤ (就職~留学前)	x
図12	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル⑥ (日本語学校前期)	xi
図13	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル⑦ (日本語学校中期)	xii
図14	: 学習動機と学習ストラテジーとの関係モデル⑧ (日本語学校後期)	xiii
図15	: 来日前の学習動機づけのまとめ	xiv
図16	: 来日後の学習動機づけのまとめ	xv
図17	: 来日前の学習ストラテジーのまとめ	xvi
図18	: 来日後の学習ストラテジーのまとめ	xvii
図19	: 学習動機づけと学習動機ストラテジーの関係性のまとめ① (来日前)	xviii
図20	: 学習動機づけと学習動機ストラテジーの関係性のまとめ② (来日後)	xix
図21	: 学習動機づけと学習動機ストラテジーの関係性のまとめ③ (来日前後の比較)	xx
図22	: 日本語学習に影響を与える要因	xxi
	同意書	i

日本学生支援機構(2017)によると、日本における中国出身の在籍留学生数は107,260人で、全留学生数の40.2%を占めているという。この現状によって、中国人留学生の日本語学習はかなり重要である。日本語学習に影響を与える要因は様々であるが、本研究では、日本語学習過程に着目し、在日中国人1名を対象に、半構造化インタビューを行い、本人の語りから来日前後の学習動機づけ及び学習戦略の実態と特徴を解明することを目的とした。具体的には以下の2つの研究課題を明らかにすることにした。

- ① 来日前後に、学習者の動機づけと学習戦略に変化があるかを解明し、両者の因果関係を探る。
- ② 質的調査により動機づけと学習戦略の変化のプロセスを解明する。

研究方法は半構造化インタビュー調査で得たデータを、協力者の日本語学習過程を時系列に並べて再構成し、再構成された日本語学習状況を5つの時期に分類し、TEM図(複線経路・等至性モデル)により日本語学習状況の経路を示した。そのTEM図より、学習者の学習動機と学習戦略についての内容を取り出し、各時期における学習者の学習動機を自律性の程度に基づいて分類した。学習戦略は目標言語の学習につながる学習者の具体的な行動を、学習戦略の分類方法により分けた。その上で、時間軸に沿い、学習動機づけと学習戦略との関係モデルを構築した。このプロセスでは、文脈に特に注意しながら学習動機に影響を与える要因を探った。この関係モデルより、来日前後の学習動機づけと学習戦略の特徴を分析し、比較した。また、このモデルより、関係パターンが見られた。この関係パターンによって、来日前後の学習動機づけと学習戦略の関係性の特徴を分析し、比較した。

分析の結果から以下のことが明らかになった。

第一に、来日前後の学習動機づけと学習戦略に変化があることがわかった。まず、「学習動機づけ」についてであるが、来日後協力者の動機づけの数は非常に減少した。その中で、内発的動機づけは、来日前に様々な種類があったが、来日後に「自信」と「学習テンション」の影響で1つだけになった。外発的動機づけは、来日前には統合的調整が最も多かったが、同一化的調整も見られた。来日後にはほぼ同一化調整だけで、統合的調整は1つだけになった。次に、「学習戦略」を見ると、来日後協力者の学習戦略の数は学習動機づけと同じように減少した。具体的には、間接STは来日前の数が圧倒的に多かった。その中で、社会的STは最も多かったが、メタ認知STは全くなかった。来日後、間接STは減少し、特に社会的STが非常に減っていた。ただ、メタ認知STが急に増えた。直接STの中で、来日後に補償STはなくなったが、記憶STは減少した。認知STの数はほぼ同じだった。

第二に、動機づけと学習戦略の間に特定の関係パターンが見られることがわかった。来日前に「動機づけの影響で間接STを使用する」、「外発的動機づけの影響で直接STを使用する」や「間接STの影響で動機づけができる」などの動機づけと学習戦略の間関係パターンがよく見られた。来日後に、「動機づけの影響で間接STを使用する」と「外発的動機づけの影響で直接STを使用する」の関係パターンがあった。学習動機づけと学習戦略の因果関係がはっきり見られたと言える。

第三に、協力者の日本語学習に影響を与えたものが明らかになった。来日前、協力者の日本語学習は周囲の状況や他者からの影響を受けることが多かった。特に、他者からの影響である。来日後は、「ストレス」、「心身状態」と「教師の教え方」のような要因が最も多く、心理的な影響を受けることが多くなった。また、高校入学後から「教師」に関する要因が継続的に見られ、教師が協力者の日本語学習に深く影響を与えていたことも分かった。

今後の課題は、本研究で扱った協力者の人数は1名だけだったので、他の日本語学習者に自律度が低い動機づけが多くみられる可能性もあり、その場合には学習動機づけと学習ストラテジーの関係性に異なる結果が出てくるのではないかと思われる。そのためには、研究対象者の人数を増やし、複数の調査を行いたい。

また、回想的半構造化インタビューで協力者は前の日本語学習を回想したが、10年前のことを覚えていなかった場合が多かったので、データの密度が均等ではなかった。このことにより日本語学習に影響を与える要因の分析は足りなかった。この要因は、日本語学習に正負の影響を与えられとされる。もし、影響要因の正負を見ながら、学習動機づけと学習ストラテジーを分析すれば、より変化の関係性が見られると思われる。ゆえに、今後はより多くの中国人日本語学習者を対象に日本語学習過程を継続的にインタビュー調査し、日本語学習影響要因の正負の調査を行いたい。

## <参考文献>

- 秋田美帆(2013)「日本留学は日本語学習を保証するか—学習環境の連続性と分断に関する事例研究—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』10, pp. 47-56.
- 板井美佐(2002)「香港における中国人学習者の日本語学習に対する動機(BF)、学習 ST 及び学習活動上の好みに関する調査—香港 4 大学機関の調査から—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』17, pp. 61-79.
- 市川伸一(1995)『学習と教育の心理学』岩波書店.
- 尹智鉉(2011)「日本語学習者の第二言語習得と学習ストラテジー」『研究紀要』81, 日本大学文理学部人文科学研究科, 17-40.
- 大西由美(2010)「ウクライナにおける大学生の日本語学習動機」『日本語教育』147, pp. 82-96.
- 岡崎敏夫(1990)「日本語教育における学習者ストラテジーの研究に向けて」『広島大学教育学部紀要』第2部38号, pp. 217-225. 広島大学教育学部
- 鹿毛雅治(2013)「第1章 学習意欲とは何か」『学習意欲の理論 動機づけの教育心理学』金子書房, pp. 11-.
- 上別府圭子・福澤利江子(2018)「複線径路等至性アプローチ(Trajectory Equifinality Approach: TEA)」『家族看護学研究』第24巻, 第1号, pp. 123-125.
- 川森めぐみ(2015)「ストラテジーを使った読解授業の成果」『同志社大学 日本語・日本文化研究』第13号, pp. 163-178.
- 関崎博紀(2009)「中国人日本語学習者の言語学習観の調査—中央民族大学外国語学院日語専業の場合—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』24, pp. 37-50.
- 河内山晶子(2016)「自律的学習モデルの構築に向けた理論とフレームワーク」『明星大学研究紀要—教育学部』第6号, pp. 65-84.
- 櫻井茂男(2012)「夢や目標をもって生きよう!—自己決定理論—」鹿毛雅治編『モチベーションをまなぶ 12 の理論』Theory2 45-71, 金剛出版.
- サトウタツヤ(2009)「TEM ではじめる質的研究—時間とプロセスを扱う研究をめざして」誠信書房.
- 朱胤(2016)「日本語学校における教室活動の役割—学習ストラテジーを取り入れたタスクベース授業を中心に—」『桜美林大学大学院言語教育研究科』
- 副島健作・金城尚美・武藤彩加(2014)「中国における日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因」『国際文化研究科論集』22, pp. 19-31.
- 高井かおり(2019)「日本語教師の葛藤とキャリア形成—元日本語教師のライフストーリーから—」『明星大学研究紀要 人文学部』第55号, pp. 1-16.
- 竹口智之(2013)「サハリン州(ユジノサハリンスク市)における日本語学習動機の変容過程と要因」『日本語教育研究』4, pp. 249-265.
- 館岡洋子(2005)「留学生の学習動機・学習観・満足度—別科中級クラスの学習者の場合—」『東海大学留学生教育センター紀要』25, pp. 27-46.
- ネウストプニー J.V. (1999)「言語学習と学習ストラテジー」宮崎里司・J.V. ネウストプニー共編『日本語教育と日本語学習—学習ストラテジー論にむけて—』pp. 3-21.

- 伴紀子(1992)「言語学習のための学習ストラテジー」『日本語研究と日本語教育』 pp. 213-223.
- 廣森友人(2006)『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』多賀出版
- 廣森友人(2010)「第3章 動機づけ研究の観点からみた効果的な英語指導法」『成長する英語学習者 学習者要因と自律学習』 pp. 47-74, 大修館書店.
- 堀越和男(2010a)「台湾における日本語学習の動機づけと大学の成績との関係 –好成績取得者の動機づけタイプの探索–」『淡江外語論集』15, 淡江大学, pp. 123-140.
- 宮崎里司(2009)『タスクで伸ばす学習力 –学習ストラテジーを活かした学びの設計–』凡人社 .
- 安田裕子(2012)「複線径路・等至性モデル(TEM) –人生の経路をとらえる–」『社会と向き合う心理学』 pp. 47-64.
- 安田裕子・サトウタツヤ(2012)「TEMでわかる人生の経路 –質的研究の新展開」誠信書房.
- 安田裕子・滑田明暢・福田茉莉他(2015a)「複線径路等至性アプローチを活用する」『TEA 理論編』 pp. 4-28.
- 山下順子(2016)「日本語学習における動機づけと自己調整学習ストラテジーの関係」『2016 CAJLE Annual Conference Proceedings』 pp. 303-310.
- 山本晃彦 (2014)「日本語学習者の学習意欲の変化とその要因–インドネシアにおける渡日前日本語研修の事例より–」『拓殖大学学位論文』
- 楊孟勳(2011)「台湾における日本語学習者の動機づけと継続ストラテジー –日本語主専攻・非専攻学習者の比較–」『日本語教育』150, pp. 116-130.

- Crookes, G., and Schmidt, R. W. (1991). Motivation: Reopening the research agenda. *Language Learning*, 41, 469-512.
- Deci, E. L., and Ryan, R. M. (2002). *Handbook of self-determination research*. Rochester, NY: The University of Rochester Press.
- Dörnyei, Z. (1994). Motivation and motivating in the foreign language classroom. *Modern Language Journal*, 78, 273-284.
- Dörnyei, Z. (1998) Motivation in second and foreign language learning. *Language Teaching*, 31, 117-135.
- Dörnyei Z (2001) *Teaching and researching Motivation*. Essex, England : Longman.
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985) *Intrinsic Motivation and Self-determination*. NY: Plenum.
- Ellis, R. (1985). *Understanding second language acquisition*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- Gardner R.C. & Lambert W.E. (1972) *Attitudes and motivation in second language learning*. Rowley, MA: Newbury House.
- Little, D. (1991). *Learner autonomy 1: Definitions, issues and problems*. Dublin: Authentik.
- Oxford, R. L. (1990) *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. NY: Newbury House.
- Zimmerman, B. J., and Schunk, D. H. (2014). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. New York: Routledge.

#### 参考

- <http://hdl.handle.net/10241/9083> 芦暁博(2013)「中国人日本語学習者の聴解学習に関するピリーフ研究 –中国の大学における日本語を主専攻とする大学生を対象に–」2018年12月10日閲覧
- <http://hdl.handle.net/10097/00120397> 王俊(2016)「学習動機と学習行動の変化–中国の大学の日本語学習者を中心に–」2018年10月10日閲覧
- [http://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2015/all.pdf](http://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2015/all.pdf) 国際交流基金



- (2017) 『海外の日本語教育の現状 2015 年度日本語教育機関調査より』 2019 年 5 月 10 日閲覧  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/attach/1249711.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/attach/1249711.htm) 文部科学省
- (2008) 『『留学生 30 万人計画』の骨子』とりまとめの考え方』 2019 年 5 月 10 日閲覧  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/2017/index.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/index.html) 日本学生支援機構
- (2017) 『平成 29 年度外国人留学生在籍状況調査結果』 2019 年 5 月 10 日閲覧